



令和3年度川俣町立福田小学校学校だより

# しらすぎ Kids NO. 45

令和4年3月11日

文責:校長 神尾孝弘

## 3・11集会 ～命の大切さを、日常のありがたさを～

東日本大震災発生から11年目の今日。「3・11集会」を放送で実施しました。当時、子どもたちは、赤ちゃんか産まれる前だったので、震災の記憶はほとんどありません。でも、未来を担う子どもたちに、震災の教訓を伝え、命の大切さや日常のありがたさを一緒に考えることはとても大切なことだと思います。今日の朝、放送で、子どもたちに、次のような話をしました。何か一つでも感じとって、それを、自分の生活に生かしていってくれたら、嬉しいです。

平成23年3月11日 午後2時46分

とても大きな地震があった。大津波が来て、多くの命が失われた。今でも行方不明の人もいる。その後の原発事故により、ふるさとに帰れなくなった人もたくさんいた。今も避難が続く人もいる。

11年前の3月11日に起きた大震災を忘れない。

そして、震災が発生する直前まで、そこで、人々が生きていたこと。そこに、普通の暮らしがあったこと。それを、忘れてはいけない。

11年後の今。新型コロナウイルス感染症が、世界中に猛威をふるっている。世界では戦争が始まっている国もある。普通の暮らしがどれほど貴重なものか。改めて考えよう。

今を大切に生きることが、命を大切にすることにつながる。

自分の命を大切に。今、生きていることに感謝しながら、一生懸命に生きていこう。

## 【「木の葉の舟」に込めた願い】

子どもたちは、今年も、「木の葉の舟」の活動に賛同し、タイサンボクの葉に、震災によせるメッセージを書きました。復興への願い、生きていることへの感謝、自分の目標、世界の平和など、震災から11年が経過する今、一人一人が感じていることを力強い文字で記しました。

そして、今日。震災発生と同じ時刻に、子どもたちの思いは、「木の葉の舟」となり、この活動を企画している「じろはったんの会」の皆さんの手で、海に流していただきました。

みんなが、タイサンボクの葉に書いたメッセージを、これからも忘れないでいてほしいと願っています。



## 【用務員さんたちからの贈り物】

3月8日(火曜日)。もうすぐ卒業する6年生へ、用務員さんたちから素敵な贈り物がありました。それは、子どもたちが6年間通った校舎の写真です。写真には、冬の青空のもと、真っ白な雪に彩られた学び舎が写っています。裏には、卒業を祝う温かいメッセージも記されていました。



3人の用務員さんを代表して、藤原さんが6年生に写真のプレゼントを渡してくれました。藤原さんは「中学校へ行って、いろいろなことがあると思うけれど、頑張ってもらいたい」と子どもたちに対する思いを話してくださいました。厳しい冬にも美しくそびえる母校の写真は、「壁にぶつかっても負けるなよ」と、子どもたちに語りかけているような気がしました。

用務員さんたちの温かいメッセージを子どもたちは、確かに受け取りました。